



## 投資と金融から見た世界経済

令和7年4月21日

黒田インターナショナルコンサルティング LLC

黒田 毅

資本が資本を生む。それが金融の現実である。これが投機と投資における金融の現実である。

これらは世界経済において金融がその中心として、自己を有するものであり、日本において働いても豊かにならないという現実、金融における搾取の構造が存在する点であると考えerことは妥当である。

他方においては、豊かな資本力が、豊かさを創造することも存在するのである。それらは世界経済において背後の資本という現実がそれら経済の現実を生むこととともに理解を要求できる。

これらは為替と株という経済の指標において、資本の流動性と移動が、それら個別現実の決定を有するという判断を求めることは決して誤りでないのである。

これらは巨大資本は、自己の眠りを求めず、その利益を追求するという現実が存在するのである。

これらは生産と金融という2つの現実が、経済の形成することにおいてその理解を要求するものである。

これらは資本力の拡大が経済それ自体を支配している現実において、経済の本質が理解できるのである。

これらは本来、経済はその生産性ととも自己を有し、生活を供与するものであり、それが本来の経済の現実であることは理解できるものである。

しかし国際金融グループという現実、経済を支配するのであり、その支配を否定して経済の確立は今日不可能なのである。